

岩手県野田村支援・交流活動報告（2012年11月17日）  
—押し花・松ぼっくりツリー作り、学習支援、野田村ツアー—

今回の活動は、野田中学校の仮設集会所で押し花・松ぼっくりツリー作り、総合学習センター児童クラブにて学習支援、野田村ツアーの3種類の活動がありました。

この日は、弘前大学で推薦入試があったため、担当教員が活動に参加することが出来ず、野田村支援・交流活動始まって以来の学生事務局だけの運営となりました。この日の参加者は、市民7名、学生28名の計35名で、さらに担当教員不在にもかかわらず、青森県立保健大学の方々と合同でボランティア活動をするという初の試みもあり、かなり特別な活動となりました。

野田村に着くと、まず押し花・松ぼっくりツリー作り、学習支援、野田村ツアーの3手に分かれました。午前には押し花・松ぼっくりツリー作りと学習支援を行った人は、午後は野田村ツアーへ行き、午前に野田村ツアーに行っていた人は、午後は押し花・松ぼっくりツリー作りか学習支援に行くという形で活動を行いました。



## 【押し花・松ぼっくりツリー作り】

押し花・松ぼっくりツリー作りは、野田中学校グラウンドにある仮設住宅・集会所で行われました。今回は青森県立保健大学の教員2名と学生2名に加わって頂き、合同での活動となりました。保健大学の皆さんも一ヶ月に一度、集会所で仮設住宅の方々と交流する活動を継続しているとのことでした。

会場に入ると10名以上の方々が既にお待ちで、慌しく準備をすることになってしまいました。テーブルを二つに分け、片側では押し花教室、もう一方で松ぼっくりツリー作りが行われます。押し花用の花がテーブルに載ると「きれいな花ですね」という声が上がりました。乾燥した花をピンセットで専用の台紙に載せ、ラミネート加工を施して完成です。完成した作品はどれも味があり、それぞれが趣深い仕上がりでした。中には知り合いにプレゼントすると言って、一人で何枚も作る方もいらっしゃいました。

松ぼっくりツリーは、松ぼっくりに緑色の塗料を塗り、もみの木(クリスマスツリー)に見立てます。作り方はまず、松ぼっくりにカラフルなモールを巻き付けます。竹串でボンドを少し付け、雪に見立てた白い発泡スチロールの玉、キラキラ光るビーズを載せ、オリジナルのツリーに仕上げます。デコレーションが終わったツリーを専用の台紙にボンドで固定し、袋でラッピングをして完成です。モールでハートマークを作り、ツリーに付けるデザインが人気だったようです。

仮設住宅の子供たちも遊びに来てくれました。外で遊ぼうと声をかけられ、学生ボランティアが何人か交代でキャッチボールや鬼ごっこをして楽しみました。集会所の前には犬小屋が二つあり、仮設住宅に住む人が飼っている犬がこちらを見えています。一匹はとても人懐っこいのですが、もう一匹は人が近づくと吠え始めます。知らない人が大勢やってきたので驚いたのでしょうか。それとも「遊んでくれ!」と叫んでいたのでしょうか。恐らく後者でしょう。

一年ぶりに仮設住宅を訪問したという市民ボランティアの方は「去年は、押し花教室をやっても仮設住宅から出てきてくれなかった。今年はこんなに沢山の人が参加してくれて嬉しい」と話していました。時間の経過と共に、野田村の皆さんが落ち着いた生活を取り戻しつつあるのは間違いがないようです。しかし一方で、「これまでは生活を再建することで精一杯だったので余計なことを考える暇もなかったが、今になって震災当時の記憶が蘇ってくることもある。」という言葉をよく聞きます。被災者の心情をよく理解し、寄り添える活動を続

けたいものだ、という想いを新たにしました。押し花や松ぼっくりツリーを作る活動は、物作りという共同作業を通じて心を解きほぐすのに最適な活動であるように感じます。

文責・藤田雄大

### 【総合学習センター児童クラブでの学習支援】

学習支援はいつもより学生が多かったせいか、子供たちも色んな遊びをしていてとても楽しそうでした。

今回は珍しく、勉強道具を持ってきていた子供たちもいたので、勉強を見てあげていた学生もいました。

ですが、やはり野田村の子供たちは元気なのでサッカーや竹馬など運動好きな子供たちが多かったです。

また、多くの男子学生は子供たちを肩車しながら子供たちと遊んでいたの、帰りのバスにつくやいなや疲れて寝ている学生も見られました。

学習ボランティアに参加してくれた学生からは、子供たちの笑顔を見ることが出来てよかったとか、子供たちと別れるのが寂しかったという声がありました。

文責・出張智仁

### 【野田村ツアー】

私は、野田村ツアーをガイドする側として参加しました。実は前日に野田村ツアーで野田村を案内してもらいますと言われて、かなり焦りました。本当は野田村に滞在している大阪大学の学生と一緒に案内するということだったので、急きょ参加できないということになりました。一人で案内するのは不安だなと思ってバスに乗ると、震災当初からずっと参加してくださっている市民の方と一緒にボランティア参加者を案内することになりました。正直不安だったのですが、よく知っている市民の方がついてきてくれるということで本当に助かりました。バスの中で市民の方とツアーのルートを確認しているうちに野田村に着きました。

野田村ツアーは初めに野田漁港へバスで移動しました。漁港では堤防が修復されているのが見え、これから津波に備えてもっと堤防を高くしているということを伝えました。他にも津波で流された三陸鉄道が2012年夏に久慈市から田野畑村まで開通になったこと、野田村は鮭の養殖やホタテが有名であるといった話をしました。ほとんど市民の方が話してくれて、ぼくはフォローする形でした。次に十府ヶ浦海岸沿いに行きました。目の前に三陸鉄道があり、ここでさっきより詳しく話しました。津波で流された松林のこと、高台のために木を切っていること、がれき撤去中に大量のお金を拾った話などしました。どの話もみなさん真剣に聞いてくれていてとても嬉しかったです。そのあと、野田村役場周辺を歩いてみました。

岩手銀行が震災当初のまま残っているのを見たり、野田村の方の話を聞いたりして初参加の方もそうでない方も貴重な体験をすることができたと思います。午後の部では午前の部よりも慣れてきて、スムーズにいきました。少し時間が余ったのでまるきんというお菓子屋さんに行き、みんなでお菓子を買いました。午前の人も連れて行きたかったです。

帰りのバスの感想で「とてもいい経験ができた」、「また機会があれば参加したいです」といった声が多くて良かったです。みなさんまたぜひ参加してください。

文責・田上晃央